

ホワイエ *Foyer* イエ

New Union of Architects & Engineers

Tokyo 623

2024. 3



- 03** 秩父宮ラグビー場と神宮球場の現在地での再生提案
東京問題研究会 神宮外苑問題検討チーム
- 12** 「変わりゆくまち、これからのまち」 石原重治
—中野ブロードウェイの開業からこれまで、そして、これから—
- 14** 三浦史郎さんの葬儀 山下千佳
- 15** 支部幹事・会計監査名簿
- 16** のこぎり屋根に魅せられて 吉田敬子
- 18** 設計協同フォーラム「暮らし 健やか 住まい講座」案内

今月の表紙 提供：千代崎一夫
1月1日に起きた能登半島地震の被災地に新建能登半島地震復興支援本部の先発隊として、3月6日-7日に行きました。輪島市は多くの建物が倒壊していました。

Event Information

◎は新建主催行事 ◆は会員及び交流団体の行事

東京支部

◎03/12 火 18:30 第1回常任幹事会 @新建事務所

◎04/09 火 18:30 第2回常任幹事会 @新建事務所

常任幹事会は毎月1回 第2火曜日を基本に開催します。

幹事会は 概ね年4回 第1回幹事会は4月下旬または5月上旬を予定しています。

全国

◎03/16 土 13:30 能登半島地震関連勉強会と交流会 富山支部
「能登の震災状況報告&液状化対策工法の紹介」@ポルファートとやま+ZOOM

◎03/18 月 19:00 「環境と建築」研究会 金田正夫さん「地球環境の危機②」@ZOOM

◎03/25 月 19:00 「能登半島地震復興支援・先発隊視察報告会」@ZOOM

◎04/07 日 10:00 第12回子ども環境研究会 @ZOOM

◎04/20 土 10:00 全国幹事会 @ZOOM

◎06/08 土 17:00 (仮)三浦史郎さんを偲ぶ会 @主婦会館プラザエフ [四ツ谷駅前]

会員及び交流団体

◆03/30 土 10:00 設計協同フォーラム30周年「暮らし 健やか 住まい講座」@グリーンホール504



各地でのイベントや行事情報、ホワイエの原稿も随時募集しています。

下記アドレスまで原稿をお寄せください！ foyer@shinken-tokyo.orgp.emai.ne.jp

「能登半島地震復興支援・先発隊視察報告会」

3月25日(月) 19時~20時30分 オンライン開催 (要申込)

報告：丸谷博男(新建・能登地震復興支援本部長)他

申込は下記の全国ホームページより行ってください。

<https://nu-ae.com/240325notohokoku/>



3/25報告会

秩父宮ラグビー場と神宮球場の現在地での再生提案

2024年2月27日

新建築家技術者集団東京支部

東京問題研究会 神宮外苑問題検討チーム

私たちは、住む人、使う人の立場に立ち、住まい・まちづくりをすすめる建築、都市計画の専門家集団です。私たちは、2022年7月に、神宮外苑再開発に対する「見解と提案」を公表し、神宮球場は歴史的、文化的価値を評価し、現在の施設を使い続けることを提案しました。秩父宮ラグビー場も現施設を使い続けることを求めています。この施設を管理運営する日本スポーツ振興センター（以下JSC）が、耐震診断の結果を公表したことから、これを踏まえて提案しています。また、外苑内のJSC所有地については、都市計画公園としての再整備を提案しています。神宮球場については、2023年に神宮球場長が再開発以外にないと発言したことから、その根拠に対して反論し、改めて使い続けることを提案しています。

なお、この二つの競技場を保存再生活用すれば、絵画館へ向かうイチョウ並木から分かれて秩父宮ラグビー場に向かうイチョウ並木を含め、外苑の既存樹木は全て保全できます。また、建て替えに比し、CO₂の排出を大きく抑制できます。

私たちの提案は、都民や専門家とともに検討するたたき台と考えており、多くの方々にご意見、ご提案をいただき、より豊かな内容にしたいと考えています。

1 秩父宮ラグビー場の改修活用

幾多の名勝負の記憶が刻まれた秩父宮ラグビー場を改修して活用し続ける

秩父宮ラグビー場はラグビー関係者の熱意により、戦前、女子学習院があり、敗戦後、一時米軍が接収していた土地に、戦後いち早く1947（昭和22）年11月、グラウンドとして開設されました。以来、大学ラグビーでは早慶戦、早明戦など関東大学対抗戦やリーグ戦の各試合、年末年始の全国大学選手権の準決勝戦や社会人選手権の決勝戦、日本代表では対イングランド戦、対スコットランド戦などの幾多の歴史に残る名勝負が行われたラグビー場であり、その記憶はファンに深く刻まれています。また、創建当初にご尽力をいただいた秩父宮雍仁親王の名を冠した競技場でもあり、西の花園ラグビー場と合わせ、日本のラグビーフットボールの聖地と言う人もいます。

そうした歴史的蓄積と由緒を備えた施設として、この場所でこの施設を維持継承することこそが重要であると考えます。



秩父宮ラグビー場の試合観戦

■現秩父宮ラグビー場の改修について

JSCは「築76年を迎える秩父宮ラグビー場は施設全般の老朽化が激しく、ユニバーサルデザインの導入など多様なニーズへの対応が必要だが、改修・増築や現在地の建替えでは実現不可能」（参考：「新秩父宮ラグビー場（仮称）基本計画」令和3年6月 日本スポーツ振興センター）としています。

しかし、76年とはラグビー場としてグラウンドが開設された1947年からの経年です。メインスタンドなどの建築は1976年9月完成で築47年であり、適切な改修は十分に可能と考えます。

I. 耐震改修について

2010年に日建設計が行った秩父宮ラグビー場とその関連施設の耐震診断による「耐震診断評価報告書」には診断結果概要と補強方針について以下が示されています。

① 西スタンド・メインスタンド（1976年築）

全体モデルでは基準耐震性能を上回っている。部分ごとのゾーン検討では中央部、南側で判定指標値を下回っており部分的補強が必要となっている。

⇒鉄骨ブレース壁の新設並びに既存壁の増厚補強による単純な補強。

鉄骨造屋根に関しては、屋根面ブレースの新設と一部既存水平ブレース撤去などの修正を行う。

② 南スタンド（1980年築）

耐震性能を上回っている。⇒耐震補強不要である。

③ ラグビークラブハウス（1971年築）

一部補強が必要である。⇒一般的な単純な耐震補強が可能。

④ 東テニスコラブハウス（1967年築）

事務室部分の一部に極脆性柱があるが、全体的には指標基準値を上回っている。⇒極脆性柱の解消と耐震スリットの新設。

上記のように耐震診断結果と耐震補強方針が示されているのです。

なお、バックスタンド並びに北側スタンドは新耐震基準施行（1981年）以降の建築であり、現行耐震基準を満たしていると考えられ、耐震補強対象からは除かれています。

つまり現秩父宮ラグビー場は、老朽化には当たらず、適切な部分的耐震補強を施せば、これからも十分に使用出来る耐震化が可能であることが示されています。

II. その他の改修について

事業者が提示している「ユニバーサルデザインの導入など多様なニーズへの対応が不可能」としている点についても、現施設の構成形態、敷地状況などから、スペースはあり、既存メインスタンドの構成が単純明快であることから、増築やバックヤードの充実、設備施設の更新、バリアフリー化など、充分に対応が可能であると考えます。

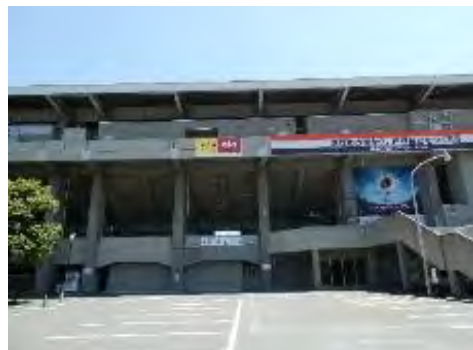
2階スタンドへ上る中央階段両側の2階のテラスを、スタジアム通り側のフロント広場上に増築することによって、必要な会議室等の諸施設を設けるスペースもでき、エレベーター設置



2階テラス、メインスタンド裏。コンクリート肌は古びていない。メインスタンドは一部補強が必要だが全体的に耐震改修の必要はない。



部分補強が必要な西側スタンドの屋根



入口側の広場・駐車場から見たメインスタンド裏側と2階テラス。そのテラスは広場上に増築可能。

も可能です。1階はピロティにして駐車場にできます。ユニバーサルデザインをいき渡らせることも可能と考えます。

■ 計画されている新ラグビー場の問題—対比のために

ラグビーは屋外の全天候型スポーツです。どんな天候でも試合を行い、高度な技術を競い合うものであり、室内ではラグビー本来の姿が失われます。ちなみに、再開発で計画されている新ラグビー場は、イベント重視に傾倒し、屋根を持つインナースタジアムであり、客数1.5万で、秩父宮ラグビー場2.5万人の3分の2に減少します。

また、試合やイベント時の照明、換気、空調に多額の費用が掛かるだけでなく、維持管理費も多額になります。

その上、聖徳記念絵画館と国立競技場に近接した位置に巨大なヴォリュームの建造物を建てることは、外苑の広やかな空間を破壊し、先人が努力してきた外苑の形成史への敬意を全く欠いています。

以上のように、既存ラグビー場の改修が比較的容易に可能であることに対し、計画されている室内化されるラグビー場には大きな問題があり、計画の合理性は見当たりません。

JSCは、国の予算を使う公的な機関であり、国民の利益、福祉のために、計画を見直し、既存活用に切り替えることを、私たちは強く提案します。

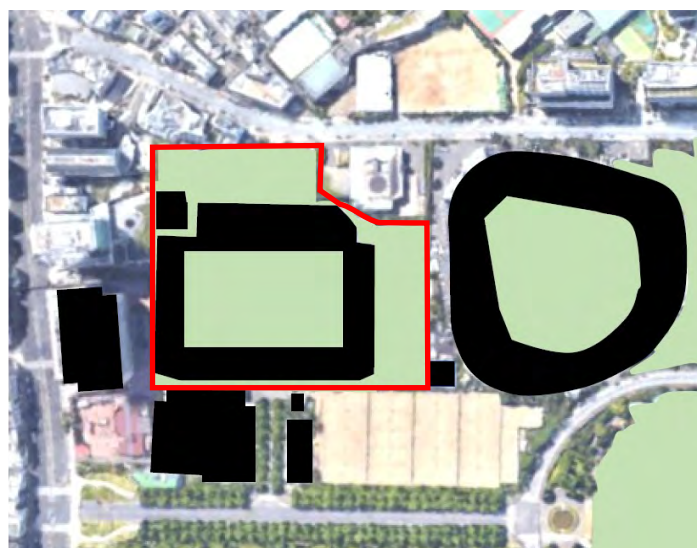
2 JSC 所有地を公園として再整備

JSCは、文部科学省が所管する日本のスポーツ振興を目的とする独立行政法人です。JSCは神宮外園内に所有する敷地に会員制のテニスクラブを設置し、敷地西側は門扉で仕切り守衛を配置して未供用区域（一般の人々が自由に出入りできない区域）としています。これはJSCの身勝手な一方的な判断です。しかも、未供用区域を理由に公園まちづくり制度を利用し、都市計画公園区域を廃止し、開発業者が超高層ビルを建てることを可能にしています。こうした営利を目的とした判断を看過できません。国の付属機関としてあるまじき行為と考えます。

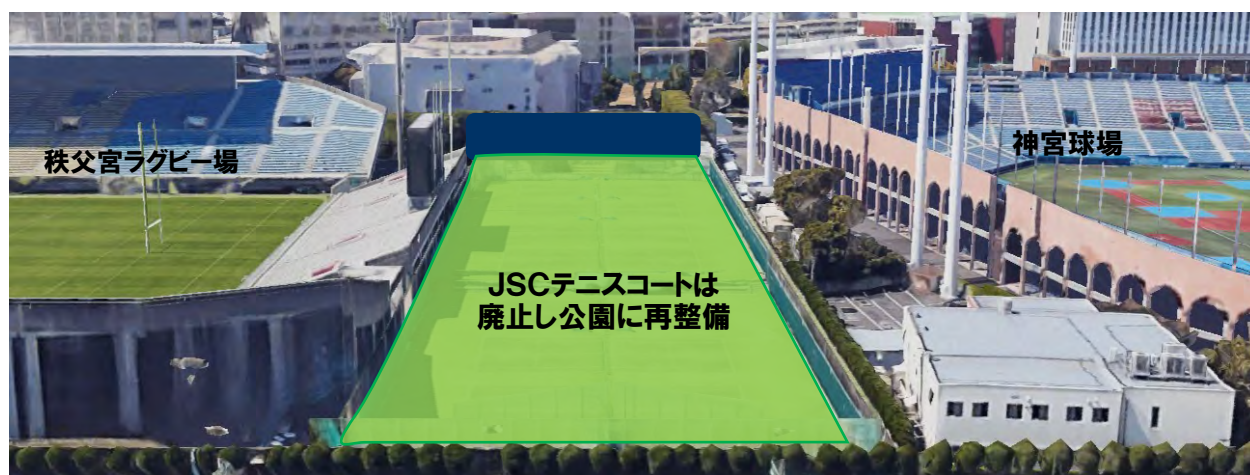
このJSC所有地は、都市計画公園区域であり、本来だれもが自由に利用できる公共空間です。テニスコート及び関係施設を廃止し、だれもが憩える緑豊かな公園として再整備することを提案します。これにより、神宮球場と秩父宮ラグビー場は、公園を介して一体的な空間となることが期待できます。



高さ50mに及ぶ巨大な新ラグビー場は広やかな歴史ある外苑の空間を毀損する。
出典：JSCによる完成イメージ図



都市計画公園区域内のJSC所有地(赤枠)



JSCテニスコートを廃止して公園として再整備することにより、秩父宮ラグビー場と神宮球場が一体的な空間になる
(上下ともに Google-Earth Pro の現状航空写真に加筆)

3 神宮球場の再生 (2023年10月25日新建築家技術者集団東京支部決定を転載)

私たちは、神宮球場を壊さず使い続けることを主張してきました。現在の神宮球場は2013年～16年まで3年をかけて耐震補強工事をしており、存続を望む署名が約4万人に達しています。それに対し、神宮球場の球場長が、現在の神宮球場では安全や快適性を提供するには困難として、以下の①～④の4項目を挙げ、解決するには再開発への参加以外ないと理由づけています。(参考: 2023.7.10 週刊ベースボール ONLINE 「『明治神宮外苑再開発』による神宮球場の大幅リニューアルが困難な2つの理由」)

- ① バリアフリー化が困難
- ② 歩車分離ができない
- ③ コンコースが狭い
- ④ バックヤードの不足

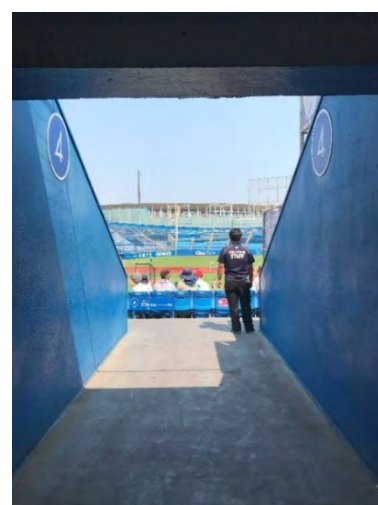


写真1

上記以外に合わせて下記の問題があります。

- ⑤ スタンドの座席の狭さの解消と座席の増設
- ⑥ 工期不足と工事用の敷地不足

このことに関連して、新建はどのように考えるかの問いが、一部の団体やジャーナリストから寄せられました。そこでこれに答えることを中心にして、現在の神宮球場を活かし使い続けるため検討を重ね、見解と提案をまとめました。

なお、出された問題を検討するには、現在の神宮球場の詳細な図面（平面図、断面図、矩計図、構造関係図書）等が必要ですが、得られていません。従って、以下は、一般観客が入れる神宮球場の内外エリアの視察に基づくもので、選手や試合関係者、球場の運営管理関係者が使うエリアは視察できていない条件での見解です。

① バリアフリー化が困難 ⇒ エレベーターの設置は可能

バリアフリーの問題は、球場長が「球場の構造上や、球場内外のスペースの狭小によりエレベーター（以下E V）を設置出来ない。」と発言していますので、1階入り口レベルから、スタンド・観客席中間通路レベルへ、車椅子で到達できるようにE Vの設置を検討しました。

スタンドの外部のアーケード部にE Vシャフトを設けることを提案します。1階の入り口は、現在の喫煙コーナーの入り口同様に、外部でかつ、入場券のもぎり線の内側に設け、2階通路へは、外壁の2階の通路階の突き当りを開口し、E Vの2階の乗降口から車椅子等で内部通路に出入りできるように繋がります。(写真 1、2、3)

E Vは1塁側、3塁側内野席に対しそれぞれ2か所設けるとよいでしょう。



写真 2

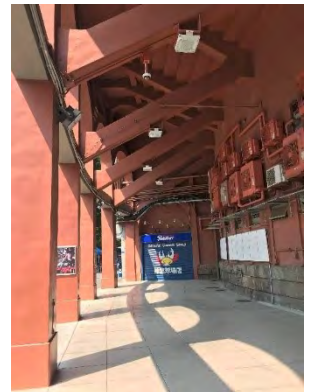


写真 3

② 歩車分離ができない ⇒ 歩行者デッキの設置

現在、人と車が併用で球場を取り巻く通路を使っています。試合当日は、車が通る際には球場係員が笛を吹くなどして歩行者に注意を促して安全を確保しています。(写真 4、5) そこを通る車の量は極めて少なく、文化財として評価がある球場であり、現在のままで運用するのが望ましいと基本的に考えます。しかし、球場管理者から見て歩車分離が、再開発で解決せねばならぬほど安全上重要なことであるなら、現在の外周壁の外側の通路部分の上に歩行者デッキを鉄骨造で建設することを提案します。その場合、外観が変わるので慎重を要し、周辺の樹木に触れないことはもとより、デザインを十分に考慮する必要があります。



写真 4

デッキを設ける範囲については、球場の要の正面周りにも回すかどうか、デッキへの階段の位置、大型バスを入れる範囲など様々な検討が必要です。

このように歩車分離の方策はいくつか問題がありますが、そのためには具体的に神宮球場側や事業者が明らかにする必要があります。

③ コンコースが狭い ⇒ コンコースの狭さの是正

スタンド下、内部のコンコースの狭さの改善については構造壁の位置やバックにある部屋により拡張できるかどうか決まります。

いずれにせよバックヤードの不足の解決方法同様、歩行者デッキの増設などにより内部化できるスペースができれば解決方法はあると考えます。(写真 6)

④ バックヤードの不足 ⇒ 不足機能の充足

球場長は「プロ野球を行う球場として不足している部屋、機能に对应できない」と主張していますが、歩行者デッキを増設すれば、1階外周のアーケード部分の大部分は内部化でき、その部分を利用して不足機能の一部を納められるでしょう。また、広さを必要とする不足機能は、第2球場が解体された現在、そこに別棟で新設すればよいと考えます。(写真 7)



写真 5



写真 6



写真 7

以上が、球場長が問題点とした項目に対する私たちの見解と提案ですが、この他にも、内野席の幅が40cmで他の球場より狭いことや、スタンドの中間通路より上部の席への階段の蹴上寸法が不揃いであるなどの指摘があります。以下そのことについて述べます。

⑤ スタンドの座席の狭さの解消と座席の増設

神宮球場の内野席の座席幅は40cmと他球場と比較して狭く、改善のため幅を広げると、既存の枠内では席は減ります。幅をどのくらいに広げるか、それによる、その減席数がどのくらいかは検討が必要ですが、図がないので不明です。しかし減席分をある程度補い増やす方策はあります。(写真8、9)

最近の球場にみられる左右両翼の外野のファウルグラウンド側に、東京ドームの「エキサイトシート」のように増設する方法と、内外野の観客席を上部へ増築する方法が考えられます。

前者はこの球場では、現在ブルペンとしてそのスペースは使われており、そこで登板に備える選手を見るのを楽しみにしている観客もいます。また、スタンド下にブルペンを移すスペースは容易には設けられそうもありません。また、神宮球場では、スタンドが内野席奥で断ち切れ、外野側スタンドの間に人が通れる隙間があり、外部とグラウンドをつなぐ空間になっています。1塁側では、おそらくヤクルトのクラブハウスから選手がグラウンドへ入る通路になり、3塁側では、ビジターチームの更衣室を含む別棟からグラウンドへの通路になっています。またフリー打撃練習用の折りたたみ式バックネットの引き込み場所にもなっています。従って集客目的でファウルグラウンドに観客席を設けることは難しいと思われます。

後者の増設は、横浜球場や仙台の楽天球場の客席増築のように、内外野の客席の最上部を増築し外側に持ち出すことです。その場合は増築部を支える自立した鉄骨柱の建設が必要ですが、周辺の高木に触れないように建てねばなりません。景観への配慮も重要です。

第2球場が解体された現在、そちら側への外野席の増設が比較的容易で、シーズン中でも工事は可能と思われます。歩行者デッキをもし設けるなら、鉄骨柱を上部に伸ばし増設観客席の床を支える構造にすれば、一体化した解決になります。いずれにしても、現在のナイター用照明塔の柱に接する直前までの増設で、景観に十分な配慮が必要です。



写真 8



写真 9

●中間通路から上部の2階観客席部分の急勾配と座席内階段の急傾斜に関して

「急勾配」の問題とは何か、明確化が必要です。

観客席の中間通路から上部の勾配が下部の座席エリアより急ですが、現状は着席すれば、前に座る人の頭越しに視野広くグラウンドがよく見渡すことが出来る利点があり、これはこのまま活かすべきと考えます。(写真 10)

また、上部客席内の階段の踏面と蹴上寸法が一定でない問題は、階段から客席横列への出入りに関係しており、解決は容易ではなく、この球場の特徴、建設時の判断の遺物として受け止めるのもやむをえないと考えます。



写真 10

⑥ 工期不足と工事用の敷地不足

●工期の問題

オフシーズンの期間では諸々の改修工事は出来ないと球場側は主張しているようですが、改修工事の方法によって多くのこと、例えば先述のEVの設置などは可能です。

また、1年のオフシーズンに限定せずに、甲子園球場が4年のオフシーズンで改修工事をしたように、必要な年月をかければいいことです。

いずれにせよ、現在の再開発計画では完成が2036年になっており、今から12年後です。それに比すれば改修工事も1年で行う必要はありません。

●工事用地の問題

第2球場が取り壊された現在では、現場小屋や資材置き場として、その敷地は活用出来ます。また2本一組の高く太いナイター用照明ポールは神宮球場の特徴の一つですが、その工事を過去に実施しています。1塁側ではJSCの敷地に接し、スタジアム通りでは道路境界に接しており両方とも敷地境界ぎりぎりに建っています。もしスタンドを増設するなら、外部足場はそのポールの直径の幅で可能と思われます。鉄骨の建設手順をよく検討し、自己敷地内で建設できる範囲に限定することも一案です。

4 再開発計画を見直し神宮外苑本来の姿に再生

CO2 排出削減・脱炭素・SDGs 持続可能な社会実現は現代の世界的潮流です。その実現のためにも、再開発計画や建物建替えなどによる大きなトータルエネルギーロスを抑え、既存施設の適切な改修有効利用などが求められています。神宮球場や秩父宮ラグビー場を壊して建て替えることは、多大なCO2を排出するだけでなく、完成後は内部空間が大きく、照明と換気、空調で多大な電気エネルギーを消費し、全くSDGsに逆行しています。

私たちは、事業者の再開発計画の見直し、神宮外苑の歴史、文化そして緑豊かな自然環境を守り、育てる計画を提案しています。(参考として簡易パンフレット表面を次頁に添付)

外苑に超高層ビルは似合わない いちよう並木と広い青空の景観を!!

新建築家技術者集団東京支部の提案

私たちは、住む人、使う人の立場に立つ建築・都市計画の専門家の集まりです。
 私たちは、神宮外苑の森と景観を受け継ぐ、再生整備を提案します。
 私たちは、神宮外苑の森と景観を破壊する大規模再開発の見直しを求めます。

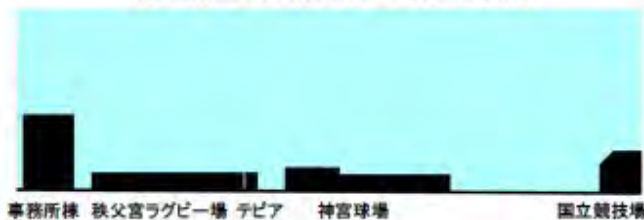


緑の拠点 銀杏並木・公園・広場等 ●●●●● 歩行網 歩道・緑道等

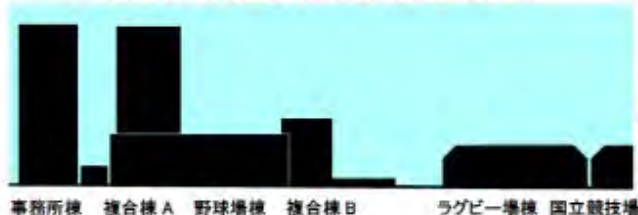
私たちが提案する施設の再生と緑のネットワーク図



緑と青空の景観を守る新建の提案



緑を壊し青空を狭める事業者の提案



事業者が発表した
 神宮外苑地区再開発イメージパース
 計画案では建替えてボリュームを増したラグビー場・球場と超高層ビルが立ち並び、低層施設も増えて、建て詰まった空間になります。

中野ブロードウェイの開業からこれまで、そして、これから

東京支部（東京問題研究会）石原重治

1966年10月開業、当時としては画期的な商業施設（商店街）と集合住宅の複合ビルである。

JR中野駅北口からの中野サンモール（商店街）の道路が、ビル1階の「広い通路＝ブロードウェイ」でつながっていて、早稲田通りまで雨にぬれずに通れる。地元商店街などの期待に応える形で誕生した。幅45m、長さ140m、高さ31m、地下3階、地上10階建て、地下1階から4階までがショッピングモール（商店街）、5階から10階までは「東洋一のビルディング」のフレーズとともに売り出された高級マンションである。店舗400軒分、住宅251戸が建設された。

ショッピングモールの変遷

開業時のショッピングモールの構成は、1、3階がファッション、地階が生鮮食料品、2階が飲食店という区分だったが、新宿や池袋でデパートが増えたことなどもあり、店舗構成も変化した。

大きな変化は、1980年の「まんだらけ」の出店であり、まわりにもマニア向けの商品や映画ポスターなどを扱うものが増えていき、アニメ文化の勢いに乗って、1990年代には「サブカル」の聖地とも言われるようになった。

現在は、地階は食品とファッションが中心。生鮮食品店、スーパー（西友中野店）、スイーツ店や女性向の服飾・アクセサリ店も多い。1階は、生活日用品を扱う店が多い。カバン・服・靴・帽子屋、スポーツショップ、薬局、写真店、貴金属店、ゲームセンターなどだが、2階以上に多いテナントも進出している。2階から4階は、サブカルチャーを中心とした漫画、アニメ、おもちゃ・フィギュア、音楽などのおたく・マニア向けが多いが、2010年代からは高級時計ショップが続々と増えている。4階は、下階に店舗を持つ会社の事務所や倉庫のほか、不動産屋などが入居している。

中野ブロードウェイのこれから

店舗部分は、開業以来、大改装を2回行ったとのことだが、商店街振興組合の役員からすると、建物よりも「高齢化により、商店の後継者がいない。商店街の分担金を負担しない非会員が増えて、商店街の存続が危惧される」という、事業継続への悩みの方が重要だ。これからも社会情勢や利用者などの意識変化に対応して、いかに商店街を存続していけるかが課題になっている。

建物は、1981年5月以前の旧耐震基準で設計・施工されているので、耐震（改修）工事が必要である。東京都が2018年3月29日、改正耐震改修促進法に基づく耐震診断結果を公表したが「Ⅱ．大規模の地震※の震動及び衝撃に対して倒壊し、又は崩壊する危険性がある」となっていたが、店舗、住宅とも権利者が多いため、大規模改修や耐震工事に向けた合意集約が難しい状況にある。

いずれにせよ、これから、中野ブロードウェイはどのように変貌するのか？「これからのまち」中野にとっても、無視できない存在である。

*本文は、2月21日（水曜日）なかの生涯学習大学が主催、中野ブロードウェイやJR中野駅周辺の再開発事業などを題材にした「変わりゆくまち、これからのまち」の特別講座をもとに、下記の資料などにより、検証・補足したものです。

- ・中野ブロードウェイ物語、長谷川晶一、亜紀書房、20220420刊行、1,870円（税込）
- ・昭和地域ニュース No40 2021(R3)年5月号、発行：中野区昭和区民活動センター運営委員会



「中野ブロードウェイ建設時の写真」検索結果から
(手前は、地下掘削中の中野サンプラザ)

中野ブロードウェイ案内図

(中野駅北口～サンモール商店街～ブロードウェイ～
早稲田通りまで一直線)



トピック 2/27 「秩父宮ラグビー場と神宮球場の現在地での再生提案」

「神宮外苑緑と空と」の Facebook にアップしたところ、下記のメッセージが届きました。

100人を超える方の「いいね」と30人近い方がシェアをしてくださいました。(3/10 現在)

Sさん：何で場所を変える必要があるのか？本当に分かりませんでした。現在地での再生案賛成です。

Oさん：全くその通りです！！

Yさん：今の建物をリノベーションして樹木も守り、いかに後世に残せるのか、このような建築家、専門家の方々の具体的なお提案をお待ちしていました。実現出来ますよう頑張ってください、応援しております。

Fさん：再開事業者の主張は、取り壊して高層ビルを建設するための口実に過ぎず、全く説得力はありません。

Iさん：日本のものの考え方・・・古いものを大事にしない。庶民の財産を平気で侵す。風景を開発という名のもとに犠牲にして【新しい】物を否定なしに Kisshindar のように《ていねい(繰り返すだけ)に説明して》ゴリ押しして利益をあげる。文化を保存する遺伝子のない日本人、心の貧しい、悲しい『先進国』です。総合的にちっとも豊かな国ではありません。激しく(この言い方にハマっています)この国を否定します。

Kさん：「神宮球場に想いを寄せる市民の会」で神宮球場の既存の場所での改修と保存を求め、活動を行っています。提案を拝見しました。説得力のある具体的な提案と感じました。大変力になります。ありがとうございました。さっそく、以下の note 記事でリンクさせていただきました。

三浦史郎さんの葬儀

2月19日に78歳で逝去され、27日・28日に松戸市で三浦史郎さんの葬儀がありました。
私は、27日の通夜に伺いました。150人を超す方がいらしていました。

三浦さんは象地域設計の元社長で新建東京支部に所属し、千葉にお住まいでしたが、定年後も東京支部の幹事や監査を担ってくださり、また全国常任幹事も長年務められていました。東日本大震災の際に設置された災害復興支援会議では、事務局長や中心メンバーとしても尽力をつくされました。

葬儀は無宗教の音楽葬という形で行なわれ、ロビーには写真などが展示されていました。

ご家族からのご会葬御礼状に「ここ数年、2月になると大病を患うことが続いていた父と、昨年今頃に「2月が鬼門」と冗談めかして話していました。無事春を迎えましたが、5月の末に体調を崩して入院し、そのまま約9か月に及ぶ療養生活。大好きだった自宅には一度も戻る事ができないまま旅立ってしまいました。緩和ケア病棟に移ってから、ようやく家族以外の方々とも面会ができることになり、喜んでいただいていたと思います。建築家として仕事一筋に歩み、諸先輩方や同僚、たくさんの同志の方々に囲まれ、好きな仕事に邁進でき、大変幸せだったと思います。退職後に東日本大震災の復興にも尽力できたことは、きっと誇りでもあったでしょう（後略）」と書かれていました。

病床で1月1日に能登地震が起きたことを知り、手で何かを表現し、声を上げたと伺いました。

心からご冥福をお祈りいたします。ありがとうございました。寂しく悲しいです。三浦さんの想いも被災地に届けられる支援をしたいと思います。
山下千佳

三浦史郎さんを偲ぶ会（仮称）

詳細は後日お知らせします。

日時：6月8日（土） 17時～ 場所：主婦会館プラザエフ

JR・東京メトロ丸ノ内線・南北線「四ツ谷駅」麴町口を出てすぐ



2024年 東京支部幹事名簿

2024.2.10総会

	幹事	代表 幹事	事務 局長	常任 幹事		担当	全国	所属
1	石原 重治			○	再任	財政部長		
2	五十嵐 一博			○	再任	相談部長		(株)綜建築研究所
3	伊藤 寛明				再任			ハイプロジェクト一級建築士事務所
4	岡田 昭人			○	再任		全国常幹・副議長	住まい・まちづくりデザインワークス
5	栗林 豊				再任			象地域設計
6	佐伯 和彦				再任			象地域設計
7	佐藤 未来				再任		全国幹事	象地域設計
8	澤田 大樹			○	再任	企画部長		象地域設計
9	杉山 昇		○	○	再任	組織部長	全国幹事	都市住宅とまちづくり研究会
10	大力 好英				再任			ING設計室
11	高田 桂子				再任		全国常幹・編集委員長	とも企画設計
12	千代崎 一夫	○		○	再任	渉外部長		住まいとまちづくりコープ
13	藤本 昌也				再任			現代計画研究所
14	松木 康高				再任			双日総合管理
15	丸谷 博男	○			再任			エーアンドエーセントラル
16	丸山 豊				再任		全国幹事	まちづくり研究所
17	柳澤 泰博			○	再任	広報部長	全国幹事	槐建築設計事務所
18	山下 千佳				再任			住まいとまちづくりコープ
19	渡辺 政利				再任			

会計監査

1	本間 充一				再任			(株)MS Architects
2	野口哲夫				新任			まちづくり研究所

常任幹事会は毎月、第2火曜日に会議を開催予定

幹事会は年4回、開催予定

鋸屋根に魅せられて

徳島県徳島市国府町

写真家 吉田敬子

「阿波しじら織」とは、旧藩主峰須賀公の時代には、一般庶民階級の者が絹布を用いることを堅く禁じていました。そこで庶民たちは、木綿織物で外見の美しさに様々な工夫をこらしたといいます。「阿波しじら」は布面にシボ（ちじみや凹凸）を掛けた織物で、このシボによる独特の肌触りの良さで、夏物衣料として人気があります。発明したのは、阿波安宅村の織女、海部ハナ（1831年、天保2年生まれ）です。嫁入りしてからも農業の傍ら機織りをして、家計を助けていました。ある日、自分が織った織物をにわか雨で濡らしてしまい、そのまま乾かせておいたところ、表面がところどころ縮んで凹凸ができていました。ハナは熱湯をかけて乾かすなど色々と手を加え、縮みをもつ新しい織物を完成させました。この新しい生地を目を付けた木綿商の安部重兵衛は1869年に「阿波しじら」と名付け販売したところ、飛ぶように売れました。1887年頃には年間生産高が150万反となり、徳島市内に200軒を超えるしじら織の機屋と、5000人の従業員を抱える機屋産地になった。という歴史があります。先代の努力で生れた高い技術を受け継いでいる、創業1897年（明治30）長尾職布さんを訪ねてきました。

長尾職布合名会社：9連木造鋸屋根工場 2017年撮影



JR 徳島線・府中駅（こうえき）	長尾職布 店舗	国道 192 より 9 連木造鋸屋根
		
染色場 昭和 22 年前後建築	阿波藍	整経機（せいけいき）
		
織場 小幅織機 8 0 台	阿波しじら織	古い写真（提供 長尾職布）
		

写真撮影の仕事で徳島県に来ていた私は、事前に長尾職布さんへ連絡をして伺いました。徳島駅から国府町までは、徳島バスで約 25 分吉野川支流の鮎喰川（あくがわ）を渡ると国道 192 沿いから、9 連の鋸屋根が頭を出して出迎えてくれました。想像以上の規模に興奮しつつ訪ねました。忙しい時間帯の中、笑顔で出迎え案内して下さった女性は 4 代目社長の奥様でした。染から織仕上げまで全工程を一貫作業で手掛けています。阿波しじら織の工程は
かせあげ 総上げ → 染色 → 水洗い → 天日干し → いとくり 糸繰 → 整経 → 機織り → 乾燥仕上げ → 完成 → 商品化です。染色場以外は鋸屋根です。どの工程も職人技でした。感動したのはベルト織機です。着尺地を織る小幅織機 80 台がガシャンガシャンと元気に稼働し、全ての織機を把握しているのは職人さんでした。鋸屋根の北彩光から差し込む柔らかい光は、しじら織には欠かせない工場でした。帰りは JR 徳島線「府中駅」から徳島駅まで電車でした。忘れられない徳島の鋸屋根、今年 2024 年、嬉しい連絡が奥様からありました。「鋸屋根の古い写真が出てきましたので、送ります。いつまでもお元気でご活躍下さい。」鋸屋根から「一期一会」を頂きました。

暮らし 健やか 住まい講座

3 月 30 日 (土) 10 時～17 時 参加費：無料

場所：板橋区立グリーンホール 504 会議室 板橋区栄町 36-1
東武東上線「大山」駅 北口から徒歩約 5 分／都営三田線「板橋区役所前」駅 A3 出口から徒歩約 5 分

設計協同フォーラムは 1994 年に設立し、今年で 30 年になりました。建築士とマンション管理士がさまざまな情報を交流し、技術を学びながら「安全、安心、快適な住まいづくり」を進めています。長年にわたり「住まいの相談会」を毎週、火・木曜日におこなっています。

午前の部

防災用品の紹介

- 10：00 あいさつ
- 10：05～10：45「能登半島地震の被害から防災を考える」
千代崎一夫（住まいとまちづくりコープ）
- 10：50～11：30「緊急！地震に強い「免震工法」を考える」
－それは力を逃すこと、そして液状化にも対応する工夫が必要－
－その結果、地盤保証 max 3 億円、免震保証と液状化保証にそれぞれ max 1 億円ずつ－
丸谷博男（エーアンドエーセントラル）
- 11：35～12：15「多摩・産直の家づくり」草野雅史（草野工務店）
- 12：15～13：00 昼休憩 非常食を食べてみる・防災用品の紹介など

午後の部

多摩・産直の家のパネル展示

- 13：00～13：10 あいさつ
- 13：10～14：40「住まい手の思いを形にする」
－これからの住まいを設計者と施工者の協働でつくる取り組み－
高本直司（一級建築士アーク・ライフ）・武藤義典（武藤工務店）
- 14：50～15：20「合板など新建材を使わないいえづくり」
－F☆☆☆☆（エフフォースター）で安心ですか？－
柳澤泰博（槐建築設計事務所）
- 15：25～15：55「多摩産直の小さな住まい」
－小さくとも使いやすく、安心・安全・省エネで快適な家づくり－
酒井行夫（DEN 設計工房）
- 16：00～16：30「マンションリフォーム 3つのポイント！」 大力好英（ING 設計室）

主催：NPO 法人 設計協同フォーラム

〒174-0072 板橋区南常盤台 1-38-11-1F TEL 03-5986-1630 FAX 03-5986-1629
e-mail sumaimachi@sumaimachi.net ホームページ <https://sekkei-forum.net/>
協力：多摩・産直すまいづくりの会／東京都学校生活協同組合／東都生協 住まいる会

暮らし 健やか 住まい講座



3月30日(土) 10時～17時

能登半島地震被災地の状況から学ぶ

- 10：05～10：45「能登半島地震の被害から防災を考える」 千代崎一夫
10：50～11：30「緊急！地震に強い「免震工法」を考える」 丸谷博男
—それは力を逃すこと、そして液状化にも対応する工夫が必要—
—その結果、地盤保証 max3億円、免震保証と液状化保証にそれぞれ max1億円ずつ—

1月1日16時10分に発生した能登半島地震は、マグニチュード7.6の直下型地震で石川県から新潟県にかけて大きな被害をもたらしました。中でも石川県能登半島地域における被害が大きく、石川県だけで死者241名（災害関連死15名含む）、安否不明者7名、避難者11,449名、住宅被害に至っては75,000棟余と甚大な被害となっています。また、断水が約18,000戸、停電約610戸と発災から2ヶ月が経ったにもかかわらず生活インフラの復旧も進んでいません。（2/29現在 NHK）

3月6日～7日に液状化の被害が大きかった石川県の内灘町や建物の倒壊が多い輪島市に行ってきました。専門家として、実際に被災地で見てきたことを元にお話します。



被災地の写真
新建 HP より

13：10～14：40

住まい手の思いを形にする

—これからの住まいを設計者と施工者の協働でつくる取り組み—

高本直司（一級建築士アーク・ライフ）・武藤義典（武藤建築）

今後、住宅建築を主に担う大工さんは10万人を下回るまでに減少する一方、空き家は2050年には2,356万戸まで増加し、多くは耐震性や断熱性能が不足した状態という見通しが新聞で紹介されました。人口減少もあり、将来への見通しが難しい中、東京都町田市で、設計者・施工者が互いに協力しながら、耐震性能を合理的に確保していく取組を続ける中から生まれてきた将来に向けての協働の取り組みを紹介します。

省エネ基準や耐震基準の義務化や住宅の省エネ化による脱炭素社会の実現など、住宅に求められる性能は高度化していく一方です。その取り組みは、耐震改修や断熱改修、高い耐震性能と断熱性能を備え防火性能が高く、改修しやすさも考慮した新築住宅の施工など、2050年に住む人が「家なき子」とはならない未来を目指して行っているものです。

設計者、施工者それぞれができることを少しずつ広げながら協力し合うことで、今までの設計者と施工者の関係を乗り越え、課題を解決できればと考えています。

住む人・使う人の立場で、
住まいづくり、まちづくりを
すすめています。



共同建替「アリスア鳩ヶ谷」

〒124-0001
東京都葛飾区小菅4-22-15
TEL : 03-3601-6841
FAX : 03-3601-6944
E-mail : zo-3@jade.dti.ne.jp
<http://www.zo-3.info>

株式会社 **象地域設計**

住み続けられる



株式会社
まちづくり研究所

〒150-0013
東京都渋谷区恵比寿 1-13-6 第二伊藤ビル 503
TEL : 03-5423-3470 FAX : 03-5423-3479

新建築家技術者集団 憲章

建築とまちづくりにたずさわる私たちは、国土を荒廃から守り、かつ環境破壊を許さず、人びとのねがう豊かな生活環境と高い文化を創造する目的をもつ。

私たちはこのことを認識し、行動するための目標をかかげ、ここに憲章を定める。

- 1 建築とまちづくりを、社会とのつながりの中でとらえよう。
- 2 地域に根ざした建築とまちづくりを、住む人使う人と協同してすすめよう。
- 3 建築とまちづくりの優れた伝統を継承し、理論や技術の発展と創造につとめよう。
- 4 人びとに支持される建築とまちづくりの活動をすすめ、専門性を確立しよう。
- 5 建築とまちづくりに関連する国内外の広い分野の人びととの交流をはかり、連帯を強めよう。
- 6 建築とまちづくり、生活と文化、自由のために平和を守ろう。

WHY?

え？

広告主募集中です!

新協建設工業株式会社

平和であればこそ建築はよろこび

本社 台東区台東2-25-10
東東京支店 江戸川区篠崎町3-1-3
台東支店 (台東) 台東区台東2-25-10
西東京支店 (多摩) 日野市神明4-22-13
大阪支店 堺市寺地町東4-2-11
石川支店 金沢市法光寺町207-4
広島支店 広島市安佐南区相田6-1-7

TEL03-3836-2011 FAX03-3837-8450
TEL03-3678-7471 FAX03-3678-7472
TEL03-3836-2017 FAX03-3835-7380
TEL042-584-7508 FAX042-584-7581
TEL072-229-2873 FAX072-229-2874
TEL076-257-2535 FAX076-257-2570
TEL082-872-1727 FAX082-872-1728